

## 資料

京都府南部の小面積孤立林（京都大学・宇治キャンパス構内）  
におけるハイタカ *Accipiter nisus* の記録久野 真純<sup>1,2\*</sup>・本村 健<sup>3</sup>・大手 信人<sup>1</sup>A record of the sparrowhawk *Accipiter nisus* in an isolated small forest patch  
of urban landscape in central JapanMasumi HISANO<sup>1,2\*</sup>, Ken MOTOMURA<sup>3</sup>, Nobuhito OHTÉ<sup>1</sup>

2023年12月2日の午前8時、京都府宇治市に位置する京都大学・宇治キャンパス構内の小面積孤立林にて森林性のタカ科猛禽類ハイタカ *Accipiter nisus* が自動撮影カメラによって撮影された。本記録は、環境省の準絶滅危惧種に指定されるハイタカの越冬期の分布や生息地を把握するうえで重要である。

キーワード：カメラトラップ、鳥類、都市生息地、都市緑地、トレイルカメラ

On the morning of 2nd December 2023, a sparrowhawk (*Accipiter nisus*: Accipitriformes, Accipitridae), a species of raptor, was photographed by a camera trap in an isolated small forest patch on the Uji Campus of Kyoto University, central Japan. The sparrowhawk is a forest-dwelling species and is listed in the Red Databook of Kyoto Prefecture as a 'Near-Threatened Species'. This is an important record to understand wintering distribution and habitat use of the sparrowhawk in Japan, where such information at fine scale is scarcely accumulated.

**Key words:** avifauna, bird, camera trap, urban greenspace, urban habitat, raptor

## 1. はじめに

ハイタカ *Accipiter nisus* はタカ目タカ科に属する猛禽類で、環境省のレッドリストでは準絶滅危惧種に指定されている（環境省、2014）。国内では、平地から亜高山帯の森林で繁殖し（植田・植村、2021）、秋期や冬期には全国の森林、農耕地や草地でも見られる（中村・中村、1995；植田ほか、2023）。本種の分布状況は、全国的なデータベースに基づく「全国鳥類繁殖分布調査報告」および「全国鳥類越冬分布調査報告」において網羅的に図示されている。繁殖期では本州以北で見られるが、1990年代から2010年代にかけて記録範囲はおよそ60%減少したとされる（植田・植村、2021）。一方、越冬期では全国に広く分布し、記録範囲も拡大傾向にある（植田ほか、2023）。しかし、繁殖分布調査報告では20 km 四方メッ

シュ（植田・植村、2021）、越冬分布調査報告では40 km 四方メッシュ（植田ほか、2023）と、分布情報については広範なスケールにおける情報しか公開されていない。希少鳥類種の分布地点、および生息地を正確に把握するうえで、各地における公式な記録（ハイタカを含む鳥類相の報告例：村田ほか、2011；新名ほか、2021；柳町、2016；出口ほか、2021；二村、1989、1994）の集積が不可欠である。2023年12月、京都府南部の小面積孤立林（京都大学・宇治キャンパス構内）においてハイタカが確認されたため報告する。

## 2. 方法

## 2.1. 調査地

京都大学・宇治キャンパス（京都府宇治市五ヶ庄）の

<sup>1</sup> 京都大学大学院情報学研究所  
Graduate School of Informatics, Kyoto University

<sup>2</sup> 広島大学大学院先進理工系科学研究科  
Graduate School of Advanced Science and Engineering, Hiroshima University

<sup>3</sup> 長野県中野市教育委員会  
Board of Education, Nakano City Hall

\* 責任著者

〒739-8529 広島県東広島市鏡山1丁目5番1号 広島大学大学院先進理工系科学研究科  
E-mail: hisano@hiroshima-u.ac.jp

周囲は市街地に囲まれ、東側 1.5 km 先には高峰山、五雲峰、明星山、喜撰山などから成る標高 200~400 m 代の丘陵地帯（醍醐山地）が、西側 1.5 km 先には巨椋干拓地の水田地帯が広がる（図 1a；久野，2023 の記述も参照）。

調査地とした小面積孤立林は、宇治キャンパス構内南部に位置する外周約 358 m の L 字型をした二次林である（図 1b；面積約 4,845 m<sup>2</sup>）。アカマツ *Pinus densiflora*、アカメガシワ *Mallotus japonicus* とムクノキ *Aphananthe aspera* が優占し、植生は、高木層にアカマツ、ムクノキ、垂高木層にエノキ *Celtis sinensis*、トベラ *Pittosporum*

*tobira*、アカメガシワ、アラカシ *Quercus glauca*、ワジュロ *Trachycarpus fortunei*、下層にツルニチニチソウ *Vinca major*、ムクノキ、キヅタ *Hedera rhombea*、ジャノヒゲ属 (*Ophiopogon* sp.) スゲ属 (*Carex* sp.)、カラムシ *Boehmeria nivea*、ビワ *Eriobotrya japonica* などから構成される（図 2）。小面積孤立林の東側はテニスコート、西側は宇治地区排水処理施設、宇治地区水質管理室、および沈殿槽（溜池のような屋外貯水槽）、南側は住宅地が隣接する（図 1b）。

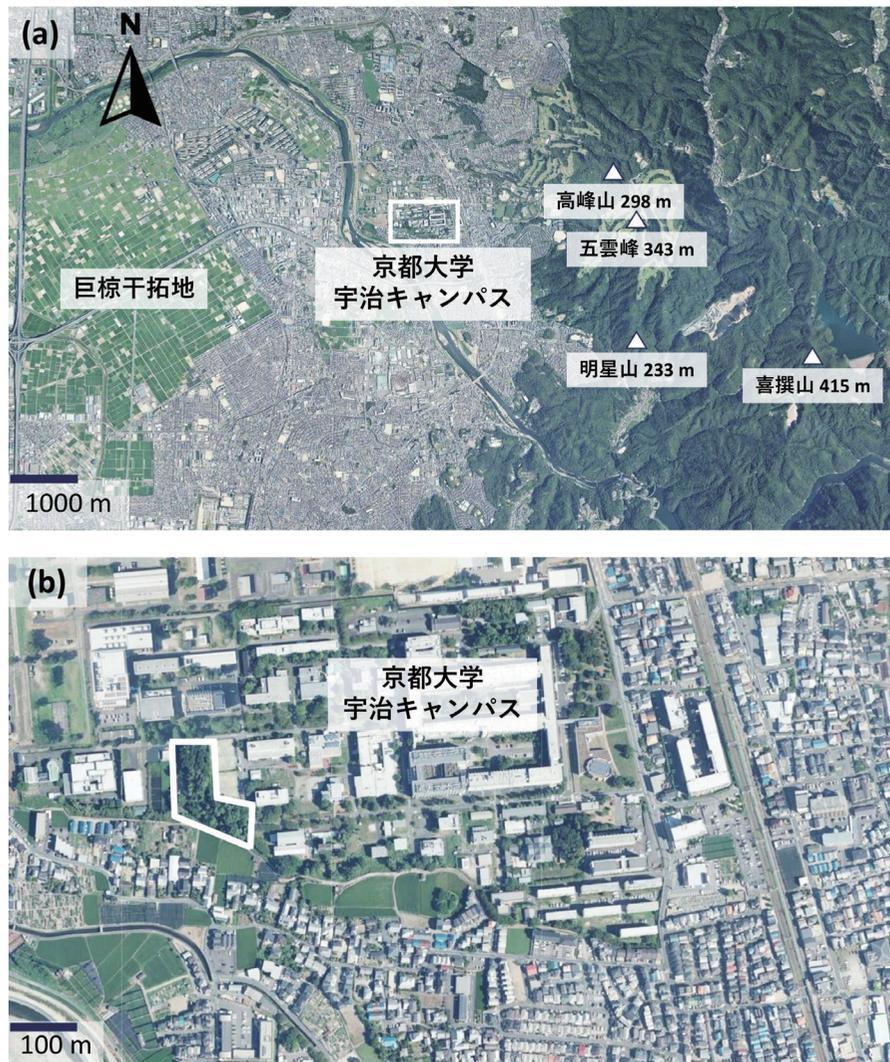


図 1 調査地の位置図。(a) 京都府宇治市北部とその周辺環境。白枠の四角形で囲まれた区画は京都大学・宇治キャンパスの敷地を示す。(b) 宇治キャンパス内の小面積孤立林（白枠内）とその周辺環境。国土地理院撮影の空中写真（2020 年撮影；<https://www.gsi.go.jp/>）を加工して作成。

Figure 1. A map showing the study site. (a) An aerial photo showing the northern area of Uji City, Kyoto and its surrounding environment. Uji Campus of Kyoto University is highlighted by the white-framed square. (b) An aerial photo showing the small forest patch (highlighted by the white frame) and its adjacent environment. The figure materials are based on the aerial photos (photographed in 2020) of Geospatial Information Authority of Japan (<https://www.gsi.go.jp/>).

## 2.2. 調査方法

2023年10月25日から2024年3月10日にかけて、上記の小面積孤立林(図1, 2)に自動撮影カメラ(Bushnell by Primos Prime 社製 119932C; 1分間隔撮影で設定)を2台設置した。いずれも高さ約1.3mの位置に設置した。各カメラの地点間は約30mの間隔を空けた。

## 2.3. 撮影個体数

ハイタカ1羽(図3)。

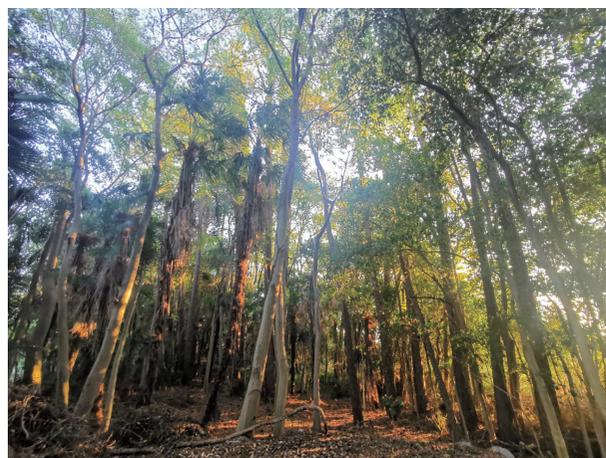


図2 自動撮影カメラによってハイタカ *Accipiter nisus* が撮影された小面積孤立林の林相(京都府宇治市: 京都大学・宇治キャンパス構内)。アカマツ *Pinus densiflora*, アカメガシワ *Mallotus japonicus*, ムクノキ *Aphananthe aspera* が優占する二次林。2023年11月5日撮影。

Figure 2. Floristic structure and composition of the small isolated forest where the sparrowhawk (*Accipiter nisus*) was photographed by the camera trap (Uji Campus of Kyoto University, Uji City, Kyoto). The forest is characterized by secondary vegetation dominated by *Pinus densiflora*, *Mallotus japonicus*, and *Aphananthe aspera*. The picture was taken on November 5th, 2023.



図3 2023年12月2日, 京都大学・宇治キャンパス(京都府宇治市)で自動撮影カメラによって撮影されたハイタカ *Accipiter nisus* の雌個体(図右下)。

Figure 3. The female sparrowhawk (*Accipiter nisus*) photographed by the camera trap at Kyoto University's Uji Campus, Uji City, Kyoto on December 2nd, 2023.

## 2.4. 撮影日時と気温

2023年12月2日, 午前08時02分, 外気温マイナス1C°。

## 2.5. 撮影地点

小面積孤立林内に設置した2台のカメラのうち1台によって撮影された(34°54'33"N 135°47'52"E; 図1)。

## 2.6. 撮影された行動

林床にて羽を下ろし, 頭部を上げて静止している姿が撮影された(図3)。

## 2.7. 種を同定した根拠

撮影された本個体の体サイズ(一般的な全長は, 雄: 30~32 cm, 雌: 37~40 cm; 真木, 2012), 形態, および体の模様からハイタカであると判断した。具体的には, 頭部からの上面が暗褐色で, 白い眉斑があり, 喉から体下面は白く灰褐色の細い横斑がある(真木, 2012)ことが確認できたことから, 本個体はハイタカの雌であると判断した。雄にも白い眉斑があるが, 頭部から上面は青灰色で喉からの下面はオレンジ色の横斑を示す(真木, 2012)。さらに, ハイタカの白い眉斑は同属のオオタカ *A. gentilis* よりも目立たず(高野, 2023), オオタカの体サイズ(雌: 53~59 cm; 真木, 2012)はハイタカよりも明らかに大きい。同じく同属ツミ *A. gularis* の雌も体下面に灰褐色の横斑を有するが, ハイタカ雌のそれと比べると太くて荒い(高野, 2023)。また, ツミの体サイズ(雌: 28~31 cm; 真木, 2012)はハイタカ雌よりも明らかに小さい。参考: 図3中央に写り込む植木鉢の口直径 = 24.5 cm。

## 3. おわりに

ハイタカは森林と強い結びつきがあり, まとまった面積を有する天然林から, 分断化・孤立した農耕地の小面積森林, 都市緑地の樹林など, 幅広い森林環境に生息する(平井, 2016)。とくに針葉樹の若齢林を好むことが報告されている(Newton, 1991)。本調査地においても, アカマツが優占する針広混交林の若齢二次林で確認されたため, 既存の知見と一致する。さらに, 筆者らは2024年1月9日午前10時頃, 宇治キャンパスから西へ1.5~3 kmから離れた巨椋干拓地(京都府宇治市小倉町新田島; 図1a参照)の水田環境において飛翔するハイタカの雌個体を目視・確認した(久野・本村, 私信)。ハイタカは秋冬期には, 平野部の草原や河川, 海岸近くの農耕地

やヨシ原などの開けた地域にも飛来する（遠藤，1987；中村・中村，1995）。このことから，撮影された小面積孤立林の地点に限らず越冬期は周辺の農地を含め広く環境を利用していると考えられる。

本ハイタカの記録は1996年～1997年における宇治キャンパスの鳥類相リスト（二村，1997）に新たな1種を加えるものである。宇治キャンパスは近隣の市街地に囲まれた小面積の都市緑地であるが，本種や前報告で記載されたフクロウ *Strix uralensis*（久野，2023）のように頂点捕食者の生息（または環境利用）が確認されたことは，本地域における都市の生物多様性を評価・把握するうえで貴重な資料といえる。

### 謝 辞

本調査は，総合地球環境学研究所実践FS「森林の価値とは一森と生きるひとと社会の未来像一」の一環として実施された。また，広島大学大学院先進理工系科学研究科の駒田夏生博士から調査地の植生に関する情報と有益な知見を提供いただいた。ここに御礼申し上げる。

### 引用文献

- 1) 出口翔大・柳町邦光・村上公輝（2021）福井県部子山におけるブナ林の鳥類群集。福井市自然史博物館研究報告 68: 37-48.
- 2) 遠藤孝一（1987）栃木県におけるワシタカ類の繁殖分布。（栃木県ワシタカ類保護対策調査報告書。栃木県林務観光部林政課，70 pp，新日本印刷株式会社，宇都宮）。11.
- 3) 平井克亥（2016）ハイタカ。（バードリサーチ生態図鑑。特定非営利活動法人バードリサーチ編，267 pp，特定非営利活動法人バードリサーチ，東京）。144-145.
- 4) 久野真純（2023）京都府南部の市街地内（京都大学・宇治キャンパス）で確認されたフクロウ *Strix uralensis* の記録。森林研究 82: 29-32.
- 5) 環境省（2014）レッドデータブック 2014：日本の絶滅のおそれのある野生生物 2 鳥類。250 pp，ぎょうせい，東京。
- 6) 真木広造（2012）ワシタカ・ハヤブサ識別図鑑。pp. 216，平凡社，東京。
- 7) 村田麻理恵・中森純也・永松大（2011）鳥取大学鳥取キャンパスの鳥類相と季節変動。山陰自然史研究 6: 25-36.
- 8) 中村登流・中村雅彦（1995）原色日本野鳥生態図鑑（陸鳥編）。pp 156，保育社，大阪。
- 9) Newton, I. (1991) Habitat variation and population regulation in Sparrowhawks. Ibis 133: 76-88.
- 10) 二村一男（1989）芦生演習林の鳥類相の季節変化。京都大学農学部演習林集報。19: 1-16.
- 11) 二村一男（1994）本部試験地の鳥類相の季節変化。京都大学農学部演習林集報。26: 1-8.
- 12) 二村一男（1997）京都大学宇治構内の鳥類相。演研。4: 45-49.
- 13) 新名俊夫・谷口昌司・岡崎賢二・塩路恒生・池田誠慈・谷口範子・新名政子（2021）広島大学東広島キャンパス構内の鳥類相（そのⅡ）。広島大学総合博物館研究報告 13: 137-158.
- 14) 高野伸二（2023）フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂新版。pp. 392，公益財団法人日本野鳥の会，東京。
- 15) 植田睦之・奴賀俊光・山崎優佑（2023）全国鳥類越冬分布調査報告 2016-2022 年。170 pp，特定非営利活動法人バードリサーチ，東京。
- 16) 植田睦之・植村慎吾（2021）自然環境保全基礎調査全国鳥類繁殖分布調査報告 日本の鳥の今を描こう 2016-2021 年。175 pp，鳥類繁殖分布調査会，東京。
- 17) 柳町邦光（2016）2015 年ふくい健康の森自然公園における鳥類相。福井市自然史博物館研究報告 63: 45-52.

（2024 年 6 月 12 日受理）